授業評価アンケートの集計結果及び分析について

ICT 活用委員会
委員　高橋　参吉（帝塚山学院大学）

１．授業評価アンケートの実施について

授業評価アンケートの実施については、全科目実施が 9 大学、一部科目実施が 4 大学である。ここで、一部科目実施については、授業評価アンケートを実施していないということではない。学生が教員の授業方法を評価するという観点から、学生が自らの学習を自己評価するという観点で、実施（もしくは、検討）されているということである。いわゆる、学生の主体的な学び（学修）を、学習の振り返りやポートフォリオなどで可視化して、評価していくものである。したがって、実施していない科目があるという否定的な意味ではなく、授業評価アンケートの在り方を問い直しているものとして捉える必要がある。

このことにより、授業設計をきっちり行い、厳しい成績評価を行っている教員に対する授業評価が低いという矛盾も、改善されていくのでないだろうか。なぜならば、学生が、自らの学修成果を把握し、自己評価をすることにより、初めて、教員の授業に対する正当な評価も行えるのではないだろうか。

２．授業評価アンケートの実施時期について

授業の最終（13～15 週）で実施しているのが 11 大学、それ以外が 5 大学である。複数回答可であるので、授業評価アンケートを 3 大学が複数回（2 回）実施している。本来、授業アンケートは、教員の授業を評価するということだけでなく、学生の意見をフィードバックすることにより、教員の授業改善につなげていくことである（勿論、授業評価が教員査定につかわれるということもあるだろうが)。その意味では、時間と手間をかけて複数回実施している大学が出てきていることは、評価できる点である。

３．授業評価アンケートの実施形式について

紙形式（マークシート）による実施が 9 大学、Web 形式による実施が 2 大学、携帯電話による実施が 1 大学、無回答が 1 大学である。また、記名による実施が 4 大学、無記名による実施が 8 大学、携帯電話による実施が 1 大学、無回答が 1 大学である。なお、1 大学が記名と無記名で 2 回実施している。また、携帯電話による実施については、情報システムとしては、記名で処理することが可能である。

紙形式（マークシート）による実施と Web 形式・携帯電話による実施の違いについては、択一回答の質問については、大きな違いはないと考えられるが、記述式の回答については、違いが生じるかもしれない。また、実施時間帯であるが、紙形式（マークシート）による実施については、通常、授業中に授業時間を割いて行われるが、Web 形式・携帯電話による実施については、授業中以外に行うことも可能である。授業中以外に実施している場合には、授業評価アンケートの回収率が低くなる可能性がある。実際に、他大学において、Web 形式から紙形式（マークシート）に戻された事例もある。

一方、記名による実施が 4 大学であるが、問 1 の授業アンケートを一部科目実施している大学（自己評価であるので、当然記名）を除くと多くはない。学生も責任を持って、授業評価を行う姿勢が必要であるが、記名式となると、やはり、率直な意見や感想を述べることは難しいし、このような場合には教員の授業改善にはつながらない。

４．授業評価アンケートの実施目的について

「教員の授業運営の状況を把握するため」が 7 大学、「学生の授業への取り組み状況を把握」が 3 大学、その他（授業改善、FD 活動）が 3 大学である。質問 1 において、授業アンケートを一部科目実施している大学は、「学生の授業への取り組み状況を把握」が目的と考えられるので、それ以外の大学の実施目的は、教員の授業運営状況や授業改善である。

５．授業評価アンケート結果の活用について

授業評価アンケート結果の活用については、多くは授業改善（19）であり、その内訳は、教員による授業改善（12）、大学・学部によるもの（7）である。一方、学生の学習態度の改善が 6(学生の気づき（4）、学部・大学の取組（2)）であった。また、学生による授業評価が 5、その他 1 であった。学生による授業評価アンケートが活用されれば、教員の指導方法の改善につながるであろう。一方、アンケート（学習者の到達度評価）、振り返り、ポートフォリオなどにより、学生が自らの学習の自己評価を行うことにより、学習態度や学習方法の改善につながるであろう。授業評価と学習者評価の双方がうまく活用されれば、学習者の主体的な学びにつながり、また、「どのように学ぶか」のように学びの質につながっていくものと思われる。

６．授業評価アンケートの工夫点や改善点について

授業評価アンケートの工夫点や改善点については、以下の回答があった。

・学生の授業時間外学習の状況把握について　（経済学部）
・ゼミナール等少人数科目におけるアンケート方法の検討　（観光学部）
・実施方法およびアンケート項目等を科目種別毎に分けて実施する　（教養科目）
・入力していない学生に対して、システムから自動的にメールを送り、入力を促している。
・本学では、学習自己評価を主体としたポートフォリオとしてデータの蓄積・可視化を行っている（学生・教員とも）。
・平成２７年度からＷｅｂ形式に変更する予定
・授業アンケートの実施目的を見直し、これまで教授法を問う設問が中心であったが、授業を受けている。
・学生の自己評価を取り入れ、教員と学生の両者の振り返りと、学習成果を問うことに主眼をおいたものに改善した。
・原則として、履修者数の少ない科目は実施対象外
・現在、本学 FD 委員会によりアンケート質問項目の全面的改訂をすすめている。授業運営の実態把握の精度をより高め、実効的な授業改善に結びつけることを目的としている。特に、学生の学力向上のために厳しい授業運営を行う教員の評価が低くなる、あるいは楽な授業ほど評価が高くなるといった矛盾点を改善することを目指している。

・工夫ではないですが、授業に関しての設問に関して、担当者が、もし該当しないと判断した項目（例えば、14. パソコンや視聴覚教材）があれば、回答しないことを指示できる。
・自由にコメントが書き込める欄があり、授業や大学への意見を述べる事が出来る。
・授業外学修時間の調査と問題解決能力（C-PLAT）の伸長を測っている。
・授業改善アンケート集計結果を教員・履修学生対象に Web にて公開、授業改善と学生個人の学習への気づきを促している。

授業評価アンケート実施に関する調査

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

先般は、当委員会の調査にご協力を頂きありがとうございます。今回は、各大学での授業評価アンケートの実施状況につきましてお伺いしたく、ご協力をお願い申し上げます。

テーマⅣ委員会

委員長　大阪成蹊大学　中井秀樹

１．貴学では、授業評価アンケートを実施されていますか

(a)　全科目実施　　(b)　一部科目のみ実施　　(c)　いいえ

以下は、１．で(a)または(b)とご回答の方のみお答えください。

２．貴学での授業評価アンケートの実施時期をお教えください(複数回答可)

(a)　１～4 週　　(b)　5～8 週　　(c)　9 週～12 週　　(d)　13 週～15 週

３．授業評価アンケートの実施形式についてお教えください

(a)　紙形式(マークシート)・記名　　(b)　Web 形式・記名　　(c)　紙形式(マークシート)・無記名

(d)　Web 形式・無記名　(e)　その他（　　）

４．授業評価アンケートの実施目的は、以下のうちどれでしょうか。もっともあてはまるものをご回答下さい。

(a)　教員の授業運営の状況を把握するため　　(b)　学生の授業への取り組み状況を把握するため

(c)　その他（　　）

５．授業評価アンケートの結果につきまして、どのように活用をされていますか(複数回答)

(a)　教員の授業改善

(b)　大学・学部における授業改善

(c)　学生の学習態度の改善(学生の気付き)

(d)　学生による授業評価

(e)　学生の学習態度改善(学部・大学の取組)

(f)　その他（　　）

６．その他、授業評価アンケート実施に際しまして、現在工夫をしている点や、今後改善を予定されていることがあれば、お書きください。

（例）授業出席回数の少ない学生の評価は外す　など

≪お願い≫

貴学で実施をされている授業評価アンケートの実施項目をご提供ください。(メール添付もしくは FAX でお願いします)　ご提供いただきました授業評価アンケートの項目につきまして

(a)　公開に同意する

(b)　学校名を伏せて公開に同意する

(c)　公開には同意できない

当アンケートは、8 月 20 日(水)までにご回答いただきたくお願い申し上げます。

ご協力ありがとうございました。

ICT 活用事例調査結果

ICT 活用事例の調査を企画し、連携 14 大学に対して ICT 活用事例に関しての提供の依頼を行い、事例集の基盤となる情報の収集を行うことができた。収集した情報の概要は以下の通り。

設問１．コンピテンシーに関する能力評価の実施状況

(a)	実施中	10
(b)	実施予定	0
(c)	実施予定なし	4

設問２．実施中のコンピテンシーは大学独自のものですか？

(a)	大学独自	3
(b)	共同開発	1
(c)	既存を参照	3

実施形態(複数回答可)

e-ラーニング	2
e-ポートフォリオ	5
その他(　　)	3

利用目的(複数回答可)

学生向け	8
教員向け	4
その他(　　)	0

ICT 活用の詳細（各大学での取り組み）

和歌山大学	

【取組の目的】

学生一人ひとりに届く大学からの支援、働きかけだけではなく、学生が将来の進路を自らの責任で選択し、主体的に学生生活を組み立て、計画的な学修を進める自立・自律力を身につけることが重要になる。その方法として、平成 21 年度から経済学部、平成 22 年度から観光学部において冊子作成をし、紙ベースで取り組み始めた「学びのデザインシート」が有効であることが確認され、本取組を“学生の計画的な学修のための自立・自律力を培う支援システム”として WEB 構築し、全学に拡げた。これは、入学時に「学びのデザインシート」(「自分の長所・短所」から「大学に進学した理由」、「これまでに力を注いできたこと」「これから取組みたいこと」、及び「将来の夢」等）を記入させ、２年次にはその「ふりかえり」と「気づき」、そして３年次の進路希望調査とキャリアデザインシートを作成するという、学生自らがキャリアをデザインしていく“しくみ”づくりである。この一連の「繰り返し」を通じて、学生は、職業人として求められる資質能力を自ら確認する。

【取組の概要】

経済学部・観光学部では、１年生を対象に基礎演習Ｉの授業において、担当教員と共に履修手引と「学びのデザインシート」を利用し、「自分の長所・短所」から「大学に進学した理由」「これまでに力を注いできたこと」「これから取組みたいこと」、および「将来の夢」等を記入させる。これにより、大学で何を学び、今後のキャリアにどう活かしていくかについて考えてもら

う機会を与えている。
システム工学部では、１年生を対象に「学びのデザインシート」を利用し、「高校時代までに熱心に勉強してきた科目」から「今学期，重点的に勉強したい科目」、「大学に進学した理由」、「これまでに力を注いできたこと」、「これから取組みたいこと」、および「将来の進路」等を記入させている。これにより、大学で何を学び、今後のキャリアにどう活かしていくかについて考えてもらう機会を与えている。また、２セメスタ以降には、「前セメスタにおける反省」が加わり、毎セメスタにおける振り返りと目標設定を習慣づける工夫がなしている。
＜学生用＞
　マイページにログイン後、「学びのデザインシート」の質問項目に回答。プリントアウトをして講義に参加し、教員や学生と意見交換を行う。講義後、教員からのフィードバックコメントを確認できる。
＜教職員用＞
担当学生一覧ページから該当する学生を選択し、学生が記入済みの「学びのデザインシート」に教員コメントやメモを記入。担当教員の変更が年次ごとにあったとしても、引き継ぐことができる仕組みになっており、指導履歴が閲覧できる。
このシステム活用のメリットとして、以下の３点が挙げられる。
（1）きめ細かな指導に支えられた主体的な学びを実現
シートを WEB 上で共有することで教員からのきめ細かな指導が可能となり、主体的に学生生活を組み立て、計画的な学習を進めることができる。
（2）シートをもとに、演習や講義で様々な意見を交換し、お互いを高め合う
学生同士が意見交換し、お互いの想いや目標を発表し合い、良い刺激を与え合う機会を創出することができる。
（3）過去のシートを振り返り、学びのプロセスを客観的に把握する
「ふりかえり」と「気づき」を繰り返すことで、成長度合や反省点を客観的に分析。自ら学び成長する力「自立・自律力」を養うことが可能となる。
【取組の成果】
教養・基礎学力の育成に主眼を置き、主に１年生を対象とした「学びのデザインシート」導入と学習支援を行っている。平成２２年度末までに「学びのデザインシート」をシステム化し、平成２３年度前期から経済学部，観光学部，ならびにシステム工学部で試用を開始した。また、半期の試用を通して、「各学生を担当する教員が複数いた場合のシステム上の管理方法」といったシステム開発上の問題から、「学生の書いた内容に対するコメントが担当する教員間でばらつきがないようにするための記入例、指導方法」といった運用上の問題点を抽出した。システム開発上の問題点は、直ちに夏季休暇期間にシステムの改修を行った。運用上の問題や課題についても、教務委員会、学生委員会のメンバーが適宜話し合いを行い、協同で解決策を考え、教務委員長を通じて各担当教員に周知している。現在、各学部では、さらなるシステムの試用を通して、システムや運用上における問題点の洗い出しを引き続き行っている。

大阪府立大学	
・e ポートフォリオ 学生による学習と、教員による教育の自己改善支援を目的として、独自開発した e ポートフォリオを 2012 年に全学で導入した。学生による半期毎の目標設定とふり返り、および、授業毎の学習プロセスと達成度の自己評価を、成績と併せて蓄積するシステムとなっている。授業毎の学習プロセスと達成度の自己評価については、従来の授業アンケートに代わるものとして導入し、集計データは、教員の教育ポートフォリオとしても蓄積される。簡易な分析機能も有し、授業改善に活用可能である。また、データの一部は本システム上で学内向けに公開されており、教育情報の可視化に寄与している。 ・moodle と e-Learning ICT 活用による授業支援を目的として、2011 年に全学で moodle を導入した。本学独自のカスタマイズを施し、さらに継続的に機能開発を行っている。2011 年度で、約 500 科目の活用実績がある。特に、2012 年度からは、１年次生の必修科目「情報基礎」（全 14 クラス）用に作成された独自の e-Learning コンテンツが moodle 上で利用可能となっており、授業の平準化と理解度の向上に寄与している。 ・e-Learning とタブレット端末活用 看護学部（看護学類）では、従来より看護学習サポートシステムを独自開発・運用している。2012 年度からは、このシステムの利用や電子教科書の導入などを目的としてタブレット端末を試験導入し活用している。	
兵庫県立大学	
１．工学部学生の就業力情報の DB 化 工学部学生の１年生入学時、および、３年生時点での意識調査の結果を DB 化して、進路指導に利用している。 現在はセキュリティを考慮して、スタンドアロンシステムとしているが、将来はネットワーク化を検討したい。 また、当事業第４テーマ委員会のコンピテンシーモデルが開発できれば、それに切り替えていきたい。 ２．キャリア支援システム 全学の３年生と大学院１年生を対象として、求人情報検索など就職を支援するためのシステムを構築している。 今後、各学生の意識調査結果（コンピテンシー）をキャリア支援システムにリンクしてトータルのキャリア支援ができるシステムの構築を予定している。	
追手門学院大学	

【e-ラーニング】
主に入学前教育におけるリメディアル教育のために、2012 年に導入。
専願入試にて入学する学生を中心に、一定の学習効果が見られたが、成果の高い学生とそうでない学生の差が大きく、運用方法を見直しているところである。

【e-ポートフォリオ】
キャリア支援用のポートフォリオシステムとして、2008 年度に「キャリ蔵」2010 年度「シュウ蔵」を独自開発。
キャリ蔵は、学生が授業やゼミ、課外活動などを通じて得られた気づきや学びを記録していくもので、キャリア教育科目の振り返りを記入することから活用を促進している。一方シュウ蔵には、気になった企業の情報や就職試験の振り返りなど、就職活動の記録を残していく事となる。
また、同一画面内に「社会人基礎力診断」「シュウカツ伝言板」が併設されており、伝言板には求人情報や企業説明会などの情報が配信される。これによって、キャリア設計のための情報蓄積がワンストップで完結する設計となっている。
キャリ蔵は、教職員、学生との双方向でのやりとりが可能であるためコミュニケーションのツールとしての機能も果たしている。４年間の記録を残すことにより、就職活動の際に自分のやってきたこと、強み発見の材料として活用することができるようになっている。
また、社会人基礎力診断は、各学年ごとの最終記録をレーダーチャートとして残せることから、学生自らが成長を実感できる仕組みとなっている。

大阪成蹊大学	

業者の LMS をベースに機能拡張を行った独自の大学 SNS を構築。主な機能は、e-communication(コミュニティ管理及びのメンバ間掲示板)、e-learning(問題集・教科書機能、LMS 含む)、e-portfolio(ルーブリックによるコンピテンシーチェックによるふりかえり機能)で、これらの機能に加えて、システム全体で使用できるアバタ機能とアバタのためのアイテムパーツ購入に利用できるポイントシステム(ログインボーナス、学習、コミュニティの利用によるポイント付加)が組み込まれている。
e-learning 及び LMS は市販のパッケージを利用しているが，その他は独自開発のシステムであり、学習者・指導者登録・管理、問題・教科書の作成も学内スタッフで行っている．システム開発については外部業者に委託しており、システムメンテナンスも同社に依頼している．運営は、学内スタッフ(現在は、産業界ニーズ補助金にて、専任事務を１名雇用)が行っている．
現在、全学生にアカウントを付与し、e-learning についてはリメディアル学習や授業の資料の提示及び復習用の問題集への活用などに利用できる状態にあるが、利用者は一部にとどまっている。e-portfolio については，延べ 100 名以上が利用し、学習成果記録として、目標の設定及び到達状況、自己評価記録、共通プログラム取組の映像記録及びコメント記録などを行っている。また、自己評価能力の向上に向けての工夫として、ビデオによる鏡的なふりかえり学習を

支援する機能拡張を行っている。	
関西外国語大学	
本システムは、①学生の多種多様な学びや経験を誘発し、それらを有機的に結びつけ一つに統合させること、②PDCA サイクルの習慣化により、成果や達成感を着実に積み重ねさせることを目的とする。運用対象は全学年であるが、特に 1 年次生については全員必須となる。まず、本システムを通じて学生は学期ごとに自己プロフィール、学習面・サークルなどの課外活動・アルバイトなどの学外活動の 3 分野において学期計画を立てる。学期中は計画に添って日々の活動状況、成果、行動変化をブログ方式で入力し、学期終了とともに振り返りを行う。システムは必修科目「キャリアデザイン」と連動し、担当教員が入力内容のチェックを行い、成績評価にも組み込んでいる。 システムの運用コンセプトは「チャレンジ」である。主体的に様々なことに挑戦し、計画に基づき実行できる力、粘り強く自己の課題に取り組み、壁を乗り越えてゆく力を、本学では就業力の核であると考え、本システムの導入を行っている。システムへの入力履歴は、実際の就職活動時にそのままエントリーシートとなり、自分が 4 年間で何を成し遂げたか、自分がどのような人物か、いつでも簡潔に他者に伝えることが容易になる仕組みとなっている。なお、平成 26 年度よりはクラスアドバイザーが学生の入力状況をモニタリングし、よりきめ細かい学修支援を行う予定である。なお、運用成果については、評価方法、実施方法等を現在検討中である。	
帝塚山学院大学	
2012 年秋より導入し、2013 年 4 月から全学的に運用している。C-learning には、学生の管理機能のほか、下記の機能があるが、教員により、機能の利用は異なる。 ①出席管理：ケータイやスマホで，出席管理機能を利用してとることができる。学習者側からも、授業の出席の確認ができる。 ②アンケート：授業の感想やアンケートなどは、アンケート機能を利用してとることができる。 ③掲示板：学生への連絡事項は、掲示板を利用できる。また、学生のケータイやPCへも一斉送信（転送）をすることができる。 ④教材倉庫：授業用のプリント教材、PowerPoint資料などは、教材倉庫に上げることができる。 ⑤レポート：レポート機能を利用して提出させることができ、個人ごとに提出状況を把握でき、個人の学習記録として管理できる。 ⑥協働板：添付ファイルを設定できること以外は掲示板とほぼ同じでグループごとの協働板を設定して、学生のグループ討議に活用することができる。 ⑦小テスト、ドリル：練習問題などをC-learningの小テストやドリルにして登録することができる。学習成果（点数、解答時間など）を、個人の学習記録として管理することができる。 ⑧相談室：遅刻連絡など学生からの連絡や相談、教員からの連絡に利用できる。 ⑨みんなで評価：学習者全員が、レポートや発表の評価をする機能で、点数やコメントを記入できる。 ⑩ニュース機能	

なお、出席管理については、2013 年度より事務局が全学生を登録して、すべての科目で、出席管理ができるようになった。前期の利用教員数は、限られていたが、後期に向けて利用者数を増やしていく予定である。現在（6 月段階）では、以下のことが報告されている。 ・C-Learning の講義コードと従来から使用している科目コードを同一にしたことや登録ガイダンスにより、学生（特に１回生）の使用率は高い。 ・事務局機能では教員のログイン回数は調べられるが、具体的な機能の利用状況までは確認できない。 ・利用科目に限られるが、大よその学生の出席状況が事務局機能により把握できるようになっている。	
芦屋大学	
通常の授業の中ではＩＣＴビジネス（２０１３年度より通年開講、２年生対象）とＩＣＴ概論（２０１２年度より通年開講、３年生対象）を開講。ＩＣＴビジネスではソフトの基本操作からはじまり、企業の経営改善や意思決定に役立つ資料を作成できる情報処理能力の取得を目指す。ＩＣＴ概論では最終的にはＩＴパスポートの資格取得を目標とし、システム構築や管理についての理解や具体例を用いた実社会での活用方法を学ぶ。ＩＣＴビジネスからＩＣＴ概論へと続けて履修をすることにより、パソコンやネットワークに関する知識や技法を体系的に学ぶことができる。 本補助金では昨年度より外部組織と共同開発するマネジメント力の基礎となるＩ Ｃ Ｔ スキルを修得し、実践的な人材育成を目標とし、学生が段階的に修得成果を確認できるプログラムを開発。従来の教育では、形式的な模範解答を踏襲する形の教育方法が主流であるが、実社会では自分で最善の答え（成果）を模索し、その答えに対して協力者を募り成功まで導くという、前に踏み出す力、考えぬく力、チームワーク（※社会人基礎力を参考に能力を定義）が必要になっている。 このプログラムの目的は、大学の教育ではなかなか教えることができない、社会人として必要な能力を研修として修得させることにある。このプログラムを通じて目指すところは、ＩＴパスポートの取得レベルまで情報活用力を高める事、それ以外には自ら企画し、パワーポイントなどのソフトを駆使しプレゼン能力を同時に高めるところにある。 具体的には全１４回（２～４年生対象）の講義と１回の成果発表会を行い、前に踏み出す力、考えぬく力、チームワーク等を学んでいく。単位は２単位が与えられる。この講義には昨年度２８名が履修登録を行った。	
大手前大学	
1,2,3 回生の必修コア科目授業と連携し、半期ごとにコンピテンシーの評価基準に基づき目標設定および自己評価を実施させている。 これを e ポートフォリオにより蓄積し、教員が指導に活用している。	
神戸学院大学	

Celeb

2003年導入。授業単位での課題・教材の提示、掲示板、レポート回収、アンケート機能が利用可能。シンプルで使いやすいように機能を限定し利便性を向上させたe-learningシステム。

dot Campus

2002年導入。授業（科目や1講義）単位での連絡、課題・教材の提示、掲示板、レポート回収・添削、テスト作成、アンケート機能等が利用できる多機能なe-learningシステム。

■2012年度利用状況

①利用学生数

利用システム	利用学生数	(%)
Celeb	6,394	(62.2)
dotCampus	8,308	(80.8)
重複利用者数	5,281	(51.4)
実質利用者数	9,421	(91.7)

②教員利用状況（学部別）

学部〔（ ）内は教員数〕	Celeb		dotCampus	
	人数	科目数	人数	科目数
法学部 (40)	6	24	4	13
経済学部 (33)	9	69	4	31
経営学部 (30)	12	81	5	32
人文学部 (60)	10	84	10	67
総リハ学部 (48)	6	33	5	30
栄養学部 (20)	4	34	0	0
薬学部 (65)	1	13	10	37
共通教育 (179)	8	71	16	128
学際教育 (28)	0	0	0	0
合計	56	409	54	338

平成26年度の活動予定

平成25年度の成果として得られたICT活用事例をもとに、事例集の作成に関する準備を進め、平成26年度成果として、事例集の提供を行う。

資料　各大学提供のコンピテンシー

①大阪府立大学

大阪府立大学学士課程が目指す学修成果

（知識）

・人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康についての理解を深め、利用できる。

・それぞれの専門領域における知識と技術を体系的に学び、応用できる。

（技能）

・日本語で論理的な文章を読み、書くことができ、説得力のある議論ができる。

・英語で読み、書くことができ、他者と意思疎通できる。

・物事を客観的・分析的に理解するための批判的思考を身に付ける。

・インターネットなどを用いて収集した多様な情報を、量的・質的に分析して適正に判断できる。

（判断・行動）

・必要な情報を収集し論理的に分析したうえで、すでに獲得した知識・技能を総合的に活用し、問題を解決できる。

・自分で考え、良心と社会のルールにしたがって自分の責任で判断し行動できる。

・自ら学ぶ姿勢を身に付け、生涯にわたって進んで学習できる。

2010-2011 年度　大学生の就業力育成支援事業「子育て教育系キャリア・コラボ力育成」における質問項目

1. 人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力
2. 目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力
3. 言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力
4. 目標を達成するために解決すべき問題を見つける力
5. 目標を達成するための方法やするべきことの順番を考えて準備する力
6. 解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力
7. 自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力
8. 人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力
9. 自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力

10. グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力
11. 集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力
12. 自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力
13. 学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力
14. 自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力
15. 伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力

②神戸学院大学　就業力人材要件とコンピテンシー

	就業力人材要件	コンピテンシー（重視して育成する知識・技能）
1	自己と他者の個性を尊重したコミュニケーション能力	相手が自分の話を理解しているかを気にしながら話すことができる
		自分の意見や主張を相手に文章で伝えることができる
		論理的な文章構造を設計することができる
2	論理的思考力	自分が考えた結論とその根拠を説明することができる
		目標達成に必要な方法論を考えて行動することができる
		目標達成に必要な新しい方法を考えて行動することができる
3	問題を発見し解決する方策を導く力	概念を体系的に整理することができる
		解決策を実行するだけでなく結果を振り返りことができる
		他者への問題解決の改定を説明して理解させることができる
4	自己理解・自己管理力	集団の中における規律、役割及び責任を認識した上で行動できる
		状況に応じた適切な挨拶や言葉使いができる
		やらなければならない事の整理やスケジューリングができる
5	チームワーク力	集団の中における自分の役割について責任をもってやり遂げられる
		人との関わりの中で相手を思いやって対応することができる
		人との関わりの中でリーダーシップを発揮することができる
6	獲得した知識や技能を社会	心身を健康な状態に保つための行動をしている

	に役立てる力	自分が関心のある職種や企業等が求める人物像を理解して行動している
		企業等の社会における役割を理解し情報収集している

③大阪成蹊大学　コンピテンシーモデル

1.行動基礎力

自己統率力	1　やるべきことがあっても見ないふりをしてしまう
	2
	3　なかなか行動に移せないが、やらないといけないことはわかっている
	4
	5　嫌なことでも、やらないといけないことは行動に移すことができる
	6
	7　先のことを見据え、今すべきことは何かを常に考えて行動している
	8
	9　自分をコントロールし、何事にもモチベーションを高く保ち続けることができる
主体性	1　何でも他人任せにしてしまう
	2
	3　指示されれば、そのとおり行動する
	4
	5　任されたことは、だいたい自分の責任で判断しながら進めることができる
	6
	7　いろいろなことに積極的に関わるよう自主的に行動している
	8
	9　自分を成長させるために、未知のことにも主体的に取り組んでいる
実行力	1　面倒なことはやりたくない
	2
	3　実行してみるが壁に当たるとあきらめてしまう
	4
	5　一度始めたことは、一定の成果が出るまでは続けることができる
	6
	7　一度始めたことは、自分が納得する結果が出るまでは最後まで粘り強く努力できる
	8
	9　何事に対しても、常に自分だけでなく他人も納得する結果を出そうと意識して実行している

リーダーシップ	1 誰かが指示してくれるのを待っている
	2
	3 皆の意見を集約することはどちらかというと苦手だ
	4
	5 時々は自分がまとめ役になることがある
	6
	7 皆の意見を調整しながら、話し合いを行ったり、計画を立てたりすることができる
	8
	9 自分は責任を持って何かをすることが好きであり、周りからも信頼される結果を残してきた

2.対人基礎力

自己発信力	1　できれば他人とかかわりたくない
	2
	3　他人に自分を理解してもらいたいとは思うが、そのための労力は使いたくない
	4
	5　多少の労力を使っても、自分の存在や主張を周りに理解させる努力をしている
	6
	7　常に周囲を納得させる発言をするよう心がけ、自分の考えをわかりやすく伝えることができる
	8
	9　さまざまなデータや資料を集め、客観的な裏付けに基づいて発言することができる
他者理解力	1　自分と異なる考えを持つ人とは付き合いたくない
	2
	3　自分と異なる意見や価値観があることはわかっているが、なかなか理解できない
	4
	5　誰かと話すときは相槌などを打ち、理解を示すようにしている
	6
	7　相手の真意をしっかりと理解し、それを受け止めながら話し合いを発展させることができる
	8
	9　さまざまな価値観を柔軟に受け入れ、自分の考え方の幅を広げることができる
規律性	1　自分の都合で行動することが多い
	2
	3　決まり事やルールを守らないといけないことはわかっているが、実行できないこ

	ともある
	4
	5　場を乱さないよう、一定のルールのもと行動することができる
	6
	7　社会で生きていくうえで必要なマナーやルールは身についており、特に注意されることもない
	8
	9　状況に合わせ、その場にふさわしい振る舞いをすることが身についている
ストレスコントロール	1　ちょっとした問題をストレスに感じて気分が落ち込むことがある
	2
	3　ストレスを感じることはあるが、あまり長く引きずらない
	4
	5　気分転換をすることで、ある程度ストレスを除去することができる
	6
	7　ストレスの原因となっている物事に対して正面から向き合い、それを除去するための努力ができる
	8
	9　常にプラス思考で、不安なことも努力することでそれを克服することができる

3.問題解決基礎力

現状分析力	1　自分が置かれている状況について考えることがない
	2
	3　自分にとって問題となっていることについて、ある程度はわかっている
	4
	5　自分が抱える問題について、その原因を取り除きたいと思う
	6
	7　自分が抱える問題を解決するためには何をしなければいけないか、その道筋を常に考えている
	8
	9　自分の置かれている現状を冷静に分析し、今後の目標とそのための道筋が明らかになっている
情報収集・活用力	1　何か問題を解決しなければいけない時に、どのような情報を集めたらよいかわからないことが多い
	2
	3　問題解決のためにインターネットでキーワード検索するが、そこから取り出したデータや情報をどう使えばよいかわからない

	4
	5　問題解決のための情報をある程度絞り込み、インターネットだけでなく新聞、雑誌、書籍なども活用し、幅広く情報収集している
	6
	7　収集したさまざまなデータや情報は、Word や Excel を使って整理・加工し、使いやすくしている
	8
	9　収集したデータや情報を活用することで、問題の原因となっているものを探り当て、問題解決に結びつけることができる
計画力	1　課題に取り組むとき、先のことを計画せず、場当たり的に行動することが多い
	2
	3　課題解決に向けて、一応計画を立てるが、見積もりの甘さや優先順位付けの失敗により、その通りいかないことが多い
	4
	5　これまでに経験したことのある課題については、実現可能性のある計画を立てることができる
	6
	7　初めて経験する課題に対しても、実現可能性のある計画を立てることができる
	8
	9　自分なりの課題解決法があり、どのような課題に対しても対処できる自信がある
独創性	1 自分は基本的に人と同じでよいと思っている
	2
	3 人と違う発言をしようとしても、なかなか思いつかないことが多い
	4
	5 自分なりの考えや発想を表現しようと努力しており、それができるときもある
	6
	7 他人から考え方がユニークだと言われることが多く、自分でもそう思う
	8
	9　話し合いが行き詰った時に、それを打破するようなアイデアを提供し、議論を活性化できる